

# 「マンガ家・つげ義春と調布」展 (ミニ巡回展)



「無能の人」シリーズ「石を売る」(1985年)



京王閣競輪場付近の風景



「近所の景色」(1981年)



「散歩の日々」(1984年)



つげ義春氏は、50年以上にわたり調布市に居を構え、数々の名作を世に送り出しているマンガ家であり随筆家です。貸本マンガ家時代を経て1965年から、マンガ史上大きな足跡を残した「月刊漫画ガロ」を中心に広く活躍しました。代表作「ねじ式」「紅い花」「無能の人」のほか、エッセイ『つげ義春日記』『貧困旅行記』など、その独特の作品世界とリアリズムを追求した精緻な絵は幅広い分野から高く評価され、国際的にも注目を浴びています。

本展では、作品に描かれた調布の風景や家族との暮らし、映画化された作品などを複製原画と写真を中心に紹介します。

## つげ義春氏プロフィール

1937年、東京都葛飾区に生まれる。1954年、17歳で雑誌「痛快ブック」に投稿したマンガが採用され、翌年『白面夜叉』（若木書房）で実質的にデビュー。1966年、「月刊漫画ガロ」に「沼」「チーコ」「初茸がり」等を発表。1966年2月、マンガ家水木しげる氏の仕事を手伝うため、調布市に転居。1967年、「山椒魚」「李さん一家」「紅い花」等を発表。1975年、状況劇場の女優、藤原マキと結婚。その後、家族三人の暮らしの中で「無能の人」シリーズ等を発表。2017年、生誕80周年を記念してさまざまなイベントが行われる。同年、第46回日本漫画家協会賞大賞を受賞。2020年、フランスの第47回アングレーム国際漫画祭において、特別栄誉賞を受賞。2022年、功績のある芸術家を顕彰する日本芸術院のマンガ部門の会員となる。

## 「マンガ家・つげ義春と調布」展

展覧会公式アイテム 会場にて販売します



同時開催

## 貸本小説と貸本屋の世界展

貸本屋が果たした役割や忘れられたエンターテインメント「貸本小説」の魅力を再認識し、北海道・小樽の貸本屋の歴史・実態も明らかにします。



公式X(旧Twitter)



公式ホームページ

記念講演 「貸本小説はどこからきてどこへ消えたのか」  
末永昭二氏(大衆小説研究家)

2024年11月16日(土)16時30分~18時30分  
市立小樽文学館「貸本小説と貸本屋の世界展」会場(入館料が必要です)  
お申し込み制 定員50名 要予約(tel.0134-32-2388)